令和8年度

地ケアつながりプロジェクト ～ TeamSUGE ～

令和8年度 第1回交流会 開催レポート



開催日	会場	参加者数・団体数
令和8年8月6日(木)	はぐるま共同作業所 みらぼホール	34名(団体数:24団体)

地ケアつながりプロジェクト～TeamSUGE～とは

地域包括ケアシステムとは

川崎市では、人口減少・高齢化が進展する中、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる仕組みとして、「地域包括ケアシステム」（略して「地ケア」）の構築を進めています。

TeamSUGEは、この考え方に基づき、令和4年度から菅地区で始まったプロジェクトです。

プロジェクト発足の経緯

1　地域の声を聴いてみると・・・

ヒアリングでは、「菅地区で活動する団体同士の連携が必要」、「いざという時のために、顔と顔の見える関係が重要」などの意見が上がってきました。

2　見えてきた課題

山坂の多い地域特性や、コロナ禍の影響などから、人と人、団体同士の**つながりが希薄化していることが見えてきました。**

3　TeamSUGEの始動

そこで、菅地区で活動する団体同士が顔の見える関係をつくり、新たな出会いから新たな取組が生まれることを目的として、本プロジェクトを始動しました。

地域で活動する人や団体が、分野を越えてゆるやかにつながる仕組みへ

プロジェクトの目的

1　**共有・把握**　菅地区や活動団体の**困りごと・心配ごとを共有**する

2　**つながりをつくる**　人・団体・場所などの地域資源を知り、**新たなつながりや取組のきっかけ**をつくる

3　**支え合いを育てる**　**「地ケ算（ちけざん）」**をきっかけに、支え合いの地域づくりの仕組みを育てる

「地ケ算（ちけざん）」って？

地域資源を掛け合わせた**「地ケア」の「掛け算」**

○○ × ○○

地域の人・場所・得意なことを掛け合わせて、今の取組を少し豊かにする小さなチャレンジのこと。

※TeamSUGEで生まれた言葉です。

目指す姿



新たなつながりや取組が生まれる環境・きっかけづくり

これまでの主な取組

TeamSUGEで生まれた主な地ケ算

01 ビデオゲームを利用したヒューマンライフオレンジカフェの実施



ヒューマンライフケア × 川崎市多摩スポーツセンター ほか

どこで　川崎市多摩スポーツセンター

なにを　認知症があってもなくても、安心して暮らし続けられる共生社会の実現を目的として、地域の高齢者を対象としたカフェを開催

02 新たな多世代交流の場「すげのえんがわ」



マチノパズル × ヒューマンライフケア × ホームステーション稲田堤 ほか

どこで　ホームステーション稲田堤

なにを　赤ちゃんから高齢者まで誰でも来られる居場所トランプや健康麻雀で遊んだり、勉強したり、お茶を飲んだり、自由に過ごすことができる

TeamSUGEの主な取組実績 ※令和8年9月時点

参加団体数
発足当初17団体 ⇒ 34団体

地ケ算
令和5年度10件 ⇒ 22件

交流会
令和4年度～ 合計9回

活動見学会
※団体間の交流を促進するため、プロジェクトメンバーの活動を見学する見学会
令和7年度～ 合計5回

すげタウンブック
※菅地区における人材・場所・広報などの地域資源に関する情報をまとめたブック
※ブック内容は本プロジェクトのメンバーのみで情報共有しています。
令和7年度～ 掲載情報20件



令和8年度第1回交流会について

当日の概要

日時	令和8年8月6日(木) 14:00～16:00
会場	はぐるま共同作業所 みらぼホール
参加	34名（団体数:24団体）



プログラム

オリエンテーション	**プロジェクトの概要と新しい仲間・取組を知る** ・プロジェクトの目的 ・新規参加団体の紹介 ・新しく生まれた地ケ算の紹介
第1部	**はぐるま共同作業所を紹介します！** ・施設概要の説明
第2部	**各団体の困りごとを共有してみよう！** ・ワークショップ導入 ・困りごとの共有・解決アイデアの意見交換
第3部	**まとめ** ・TeamSUGE企画部会からのお知らせ ・地域ケア推進課からのお知らせ ・アンケート・集合写真
第4部	**施設見学ツアー** ・自由参加・自由解散

本プログラムの内容は、企画部会と事務局の協働で検討し、決定しました。

「企画部会」って？

有志メンバーで構成されており、交流会の内容を事務局と共に検討しています。
より地域主体・住民主体のプロジェクトとするために設立しました。



なぜ、「困りごとの共有」をテーマにしたのか

これまでの交流会で見えてきたこと

- 地ケ算（ちけざん）のアイデアが生まれているものの、実現まで至らないケースがある
- 現在も解決していない困りごとを抱えている
- 新しく参加した団体を含め、お互いの活動や課題をもっと知りたい

プロジェクトの原点に立ち戻り、困りごとを共有し、新たな仲間や解決のヒントにつなげるため、本テーマで開催しました。

交流会当日の様子（ダイジェスト）

オリエンテーションから施設見学まで、当日の主な場面をご紹介します。

01 オリエンテーション



TeamSUGEの目的とこれまでの歩み、目指す姿について、事務局から説明を行いました。

02 新規参加団体の紹介

新たに参画された2団体から、活動内容をご紹介いただきました。

03 新しい地ケ算（ちけざん）の紹介

前回の交流会以降に生まれた取組について、事務局から紹介しました。

04 はぐるま共同作業所の紹介

交流会の会場となった「はぐるま共同作業所」について、はぐるま共同作業所の金田氏からご紹介していただきました。
はぐかふぇ、みらぼマルシェ、染乃家、アトリエ、みらぼホールなど、地域に開かれた施設の取組を知ることができました。



はぐるま共同作業所　金田氏



はぐかふぇ



みらぼマルシェ



アトリエ



染乃家

05 ワークショップ

「困りごとの共有」をテーマに、グループごとにワークショップを行った後、グループごとの結果を全体で発表しました。





06 施設見学ツアー





交流会終了後、希望者が館内を巡り、活動の現場や設備を見学しました。

グループワークの進め方

困りごとの共有から全体発表まで

付箋を使って、各団体の困りごと・解決アイデアを共有しました。

水色＝困りごと　　ピンク＝解決アイデア

1 ワークショップ導入

なぜ、いま、困りごとを共有するのか？

企画部会メンバーであるマチノパズルの築地氏から、これまでの交流会で感じていた課題と、今回あらためて「困りごとの共有」をテーマにした背景を説明しました。



マチノパズル　築地氏

2 困りごとを共有

困りごと

水色の付箋に書き出して意見交換

自分や団体が抱える悩み、活動を進める上での課題を、1枚の付箋に1項目ずつ記入。
順番に紹介し、似ている困りごとをまとめながらグループ内で共有しました。



3 解決アイデアを共有

解決アイデア

地域資源を手掛かりに解決の糸口を考える

自分たちが力になれること、「すげタウンブック」や「一芸ボランティアリスト」にある地域資源、相談できそうな人・団体などから、解決アイデアを考えました。



4 全体で発表

各グループで話し合った結果を共有

各グループが、印象に残った困りごとや解決のヒント、今後につながりそうなアイデアを発表し、参加者全体で共有しました。





解決アイデアを考える際に活用した配布資料

すげタウンブック
菅地区における人材・場所・広報などの地域資源に関する情報をまとめたブック

一芸ボランティアリスト
一芸や特技を生かして多摩区内で活動されているボランティア団体・個人の活動紹介をまとめたもの（多摩区社会福祉協議会作成）

ワークショップの結果

共有された困りごとと解決アイデア

各グループから出た意見をテーマ別に整理しました。

困りごと　解決アイデア





主な困りごと・解決アイデアの抜粋（テーマ別）

01 活動の周知について

困りごと　活動内容が地域に十分伝わっていない

アイデア　町会だより等の広報媒体を使って情報発信

02 担い手不足・担い手の高齢化

困りごと　活動を支える人手が足りない

アイデア　学生ボランティア、シルバー人材、外国籍住民等へ働きかける

03 活動場所について

困りごと　継続して利用できる場所が見つからない

アイデア　こども文化センターや道路公園センター会議室は地域活動に活用できる

04 参加者を増やす

困りごと　イベントを企画しても人が集まりにくい

アイデア
・関連施設にTeamSUGE広報スペースを作る
・子どもと一緒に活動できるイベントにする
・参加者に特典を付与する仕組みをつくる

05 子どもと地域との接点

困りごと　地域と子どもが出会う機会が少ない

アイデア
・多世代で楽しめるクイズやゲームイベントの企画
・職場体験を通じて交流する

06 地域とのつながり

困りごと　地域とのつながりが少ない

アイデア
・色々なイベントに顔を出してつながりを増やす
・すげタウンブックを活用する

07 高齢者の困りごと

困りごと　支援が必要な人の情報を把握しにくい

アイデア
・理美容室に高齢者向けの支援パンフレットを配架
・地域カフェで情報を収集・把握し支援につなぐ

08 気軽な居場所

困りごと　地域で自由に集まれる場所が少ない

アイデア
・既存施設の空き時間や交流スペースを活用する
・イベントが得意な方に相談してみる

09 広報スキル

困りごと　チラシ作成やSNSでの情報発信が難しい

アイデア　広報が得意な人からチラシの作り方や情報発信の方法を学ぶ

10 学校等教育機関との連携

困りごと　教育機関との連携が更に求められる

アイデア　教育機関にTeamSUGEに参画してもらえるよう呼びかける

各団体の困りごとには共通点が多く、団体同士で助け合う可能性も見えてきました。
また、様々な視点から解決のアイデアを共有することができました。

今後につながりそうなアイデア

見えてきた可能性

- **学校との連携**　プロジェクトへの参加呼びかけ
- **活動の周知**　町会だより等を活用した情報発信
- **情報共有の強化**　チラシ作成等の広報技術研修
- **場の提供**　地域活動に活用できる場所の提供

参加者アンケート結果

※アンケート回答数：32件（回答率94%）



交流会の満足度

問「本プロジェクトに参加して満足していますか」に対し、「かなりしている」「している」と回答した割合



今後の活動への期待

問「本日の交流会をきっかけに、新たな取組（地ケ算）が生まれる可能性はありますか」に対し、「すでに具体的な話がある」「今後相談してみたい」と回答した割合

参加者の声（抜粋）

> 「解決策がなくても、思いを共有できた」

> 「同じ困りごとがあれば、解決につながるかもしれないという期待が持てた」

> 「様々な分野の方のお話を聞くことができた」

> 「地域の活動を知ることができ、地域の一員として関わることができた。」

まとめ

今回の交流会を通じて

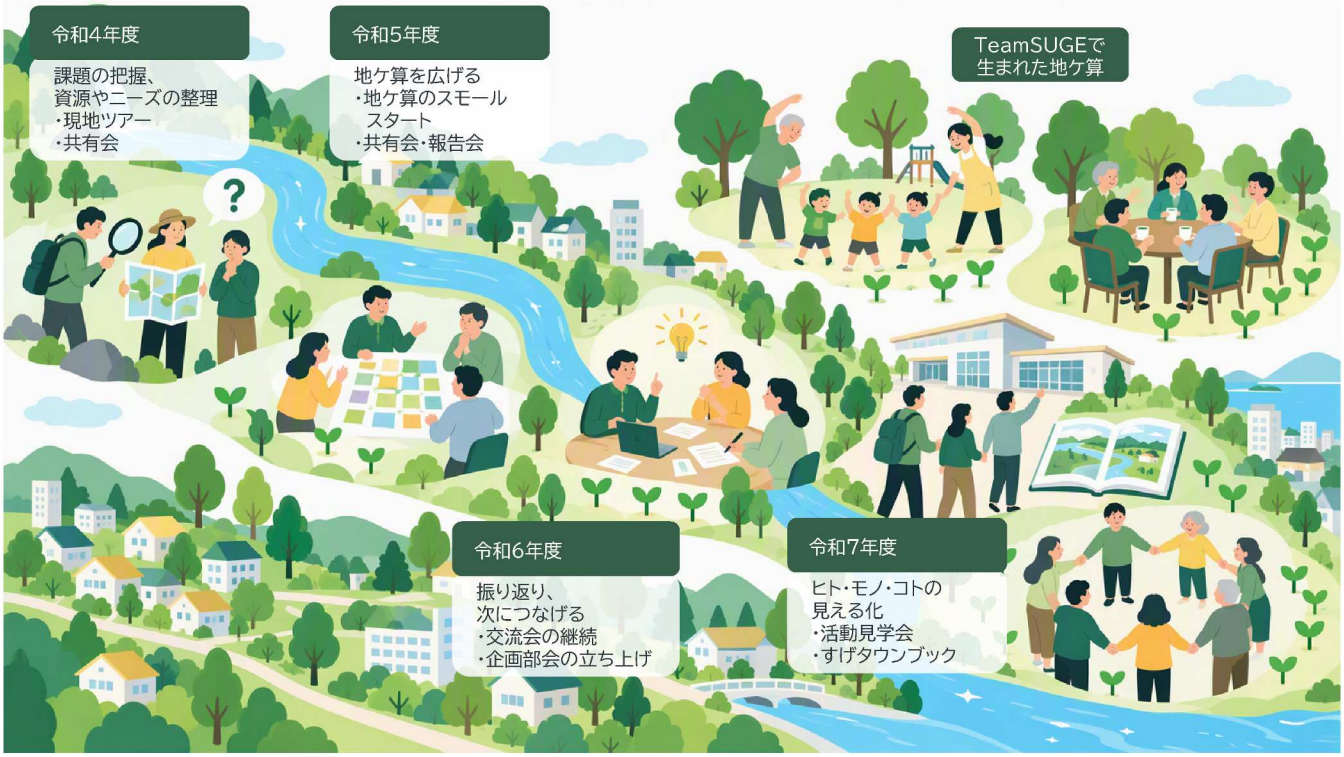
1. 新たな困りごとを共有
2. 地域資源を再確認
3. 新たな「地ケ算（ちけざん）」の芽を発見

次回に向けて　引き続き、ヒト・モノ・コトをつなぎながら、菅地区の支え合いの地域づくりを進めていきます。



ちょっとしたつながりと掛け算で、地域を少しずつ豊かに。

困りごとや地域資源を共有することから始まったTeamSUGE。
人と人、活動と地域資源がつながり、さまざまな「地ケ算」が生まれてきました。
この流れは、これからも新たなつながりへと続いていきます。



プロジェクトへのご案内

TeamSUGEに参加してみませんか？

（※個人の方・団体どちらでもご加入いただけます。）

菅地区で活動する団体や、地域づくりに関心のある方の参加をお待ちしています。

- 活動をもっと地域に知ってほしい
- 地域の人や団体とつながりたい
- 活動上の困りごとを相談したい

申込フォーム

問い合わせ・参加方法

多摩区役所地域ケア推進課
TEL：044－935－3241
MAIL:71keasui@city.kawasaki.jp

参加をご希望の方は、こちらの申込フォームからお申込みください。（電話またはメールでも受付可能です。上記のお問い合わせ先までご連絡ください。）

地ケアつながりプロジェクト ～TeamSUGE～

令和8年度 第1回交流会 開催レポート



ヒト・モノ・コトをつなぎ、
菅地区の支え合いの地域づくりへ

発行情報

発行年月日	令和8(2026)年10月発行
発行元	多摩区役所 地域みまもり支援センター 地域ケア推進課
住所	〒214-8570 川崎市多摩区登戸1775-1
電話番号	044-935-3241

WEB

これまでの取組経緯の
詳細は、区ホームページを
ご覧ください。

区ホームページ